

# 神戸市立博物館 外部評価書(24年度)

## 使命 (要点)

- 多様な神戸文化の特徴と東西文化交流の態様を明らかにし、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
- 優れた文化・芸術にふれあう機会を「提供」し、新たな調査・研究を「提案」し、その成果を「発信」する博物館となります。
- 市民・利用者が集い、神戸を愛し、誇りとする拠りどころが得られる博物館になります。
- 震災と復興のなかで得た知見を発信していきます。

## 活動目標

- 1 地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします  
文化財を保存・継承していく博物館にします
- 2 すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします
- 3 芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします
- 4 すべての人々にやさしい博物館にします

## 活動指針

- 市民が誇れる博物館
- すべての人々に親しまれる博物館
- 地域の文化を支える博物館
- 情報発信をする博物館

※各活動目標に対する外部評価の平均スコアは委員評価(A~D)の平均による

A: 4点、 B: 3点、 C: 2点、 D 1点で算出。

A : 3. 25点以上

B : 2. 50点以上 3. 25点未満

C : 1. 75点以上 2. 50点未満

D : 1. 75点未満

### 自己点検評価による総評

開館 30 年の記念の年にふさわしく、大型海外展、コレクションを生かした特別展、海外からもゲストを招いた記念行事などを開催し、充実した活動の一年であった。

自己点検評価がこれまで一貫して B 評価だった活動目標「地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします。文化財を保存・継承していく博物館にします」を A 評価とした。調査研究活動の進展、館蔵品情報（新名品撰）の大幅な公開による大きな反響が主な要因であり、また長年の懸案であった資料の購入が実現したことも十分に評価できることである。他の活動目標は昨年度と同じ評価結果であるが、リニューアルの予算などが認められるなど、さまざまな課題解決にむけての確かな一歩を踏み出すことが出来た。

### 外部評価による総評

24 年度の外部評価の結果は 4 段階評価で A、A、A、B となり、自己点検評価と同じ結果となった。

これまで活動目標『地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします』は、B 評価が続いていたが、初めて A 評価とした。調査研究活動、情報発信、資料収集に進展があったことを評価した。とくに今年度、資料収集については格段の努力が払われ、それに基づく展示や情報発信も行われた。この評価が維持されるよう、人的・予算的に余裕のない中で大変ではあるが、工夫を重ね、調査研究、資料の収集・保全を組織的、計画的に進めていただきたい。また協議会で話題となったが、学芸員はじめ職員の皆さんの仕事量が大幅に増大しているが、オーバーワークにならないよう、調査研究等の時間確保、他館・大学との連携などの方策などについて検討を進めていただきたい。

活動目標『すぐれた芸術文化に出会える博物館にします』では、神戸らしい多彩な展覧会が好評を得ていることは十分に評価できる。とくに、今年度はサントリー美術館との緊密な連携のもと、当博物館収蔵の名品とによる大型展は、当博物館の最も特色あるものとして高く評価できる。常設展に関しては、工夫の跡がみられるが、開館以来 30 年が経過しており、スペースの確保も含め、リニューアルなどの改善が行えるよう更なる検討をお願いしたい。活動目標『芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします』では、「◎学校との連携」を全員が A 評価とした。昨年もそうであり、学校連携の事業が十分に取組みられ、また学校現場からも高い評価を得ていることは実に素晴らしいことである。人的にほぼ限界に近い事業展開を行っておられ、この点も十分考慮する必要があると思われる。今後も継続していくために、連携のあり方などの工夫を図られることを期待したい。

唯一 B 評価となった『すべての人々にやさしい博物館にします』では、リニューアルの取り組みが課題である。空調設備改修は予算化できたということだが、自己点検評価にあるとおり他の老朽化対策、ユニバーサルデザインへの対応などのハード面の対応が必要であろう。予算が厳しいなか、当該目標の達成に近づけるようさまざまな努力を払っていただいているが、この目標は、博物館の努力だけでは達成できず、市当局のさまざまな援助が要請されることを付け加えておきたい。

## 活動目標 1

### 地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします 文化財を保存・継承していく博物館にします

#### 自己点検評価・・・A

中期的な調査研究テーマ「須磨」に関しては資料調査に進展があり、また地域資料の展示等による情報発信も企画展、特別展により一定の成果が得られた。また、地域資料も含め館の特色ある収蔵品に、重要な資料を10件を経常予算枠外で購入できたことは、大きな成果であった。今後の課題としては、より組織的な取り組みと活動を進める事が重要である。

#### 外部評価・・・A

- 資料調査・情報発信等に成果が見られたことはたいへん喜ばしい。今後もより組織的な取り組みを進めていただきたい。
- 中期的調査研究に進展があった事は評価できる。又、限られた予算枠の中で収蔵品を購入された努力に経緯を表する一方で、人的・予算的に厳しいと考えるが、調査研究・資料収集・保存保全についても計画的に進められたい。
- 中学校の教師として、社会科資料集（教科書）に南蛮屏風やザビエル像などが出てると、生徒たちは「おーっ」と言う。これも市民としての誇りといえる。
- 市民や子ども目線での情報発信を期待します。例えば平安期の須磨の想像図や、ビジュアル的なものをもとに現在と比較するなど。
- 子どもに分かる「地域」に関する情報提供があればうれしいが。「この町のここにこんな石碑、道標がある」など。
- (地域の歴史に関する情報発信については)文書館などとの共同研究なども進めたらどうでしょうか。危機管理については南海道地震の事もあり、再検討しても良いと思います。
- 館蔵品情報の公開は地域の人々にとり、改めて地域の歴史を確認する機会になったと思います。
- せっかくの研究成果の進展が市民に伝わっていない。特に今期は休館の期間があった為、情報が途絶えてしまったように思われた。年々影が薄くなっていくような気がしている。
- 資料調査がすすみ、収蔵品に成果ありとのこと。震災経験をいかした神戸ならではの保存に関する情報発信の活動が重要である。
- 達成状況がA、B、Fと少し差が出ているが、適切に評価されている。
- 調査研究は博物館の基礎的で大きな業務であるので、今後ともに積極的に取り組んでいただきたい。
- 教師の授業づくりに支援をさらに計画的に活発にしてほしい。地域の歴史を知らない教師、保護者、児童がとても多い。"

## 活動目標 2

すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします。

### 自己点検評価・・・A

開館30年の筋目の年にふさわしく、国宝「桜ヶ丘銅鐸」をはじめとする質の高い考古資料、重要文化財「泰西王侯騎馬図」（サントリー美術館）を代表とする南蛮美術の名品、フェルメール「真珠の耳飾の少女」など17世紀絵画の至宝、中国古代の工芸品の数々を展示し、一年間、息もつかせぬ特別展の開催で、多くの来館者に喜びと感動を届けることが出来た。あわせて常設のびいどろ史料庫コレクション室を新設して同庫の名品を陳列し、上質の和ガラスにふれる機会を作った。

### 外部評価・・・A

- 開館以来30年、堅実な運営を継続されていることに敬意を表します。
- 充実した特別展の開催により多くの来館者に感動を与えられたことはすばらしい取り組みでした。
- 常設展示のリニューアルの必要性について検討との事だが、活動の筋目等を目途に、前向きに対応出来る様努力されたい。又、展示内容は好評を得ているものと考えるので、関係方面へのPR、広報活動に更に注力されたい。
- 多彩な展示活動は十分に評価できます。
- 常設展はやや地味かと思えます。フェルメールはよかったです。教科書に載るようなものも一定数は所蔵していただきたい。
- (常設展示については)少しづつ工夫の跡が見えます。
- 海外展の集客数は「成功」と言えるかもしれませんが、その特別展でこの館を知った人がファンになり、繰り返し足を運んでくれるような常設展示ではないことは問題だと思えます。
- 積極的、大型の企画を実施し、評価できる。ただ、日頃はあまり日の当たらない様なものへの視線も忘れないで欲しい。
- 神戸らしい国際色ゆたかな展示が行われ、市内外の人々が喜び、やすらぎを得たことはすばらしい。予算面の苦労はあるが、さらに各国との交流の歴史を感じられる地域の展示があれば。
- 今後の検討課題についても評価されていて客観的に分析されている。”

## 活動目標3

### 芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします

#### 自己点検評価・・・A

学校連携および子ども向けの事業に関しては、ほぼ人的に限界に達する事業数を行っている。地域や他館との連携は、展覧会関係において概ね図られており、特に今年度はサントリー美術館との緊密な連携による大型展を開催することができた。今後の課題は、学校連携や生涯学習にかかる各種事業および他館や地域との連携活動を陳腐化させることなく、あらたな事業の開発や展開を行う必要がある。

#### 外部評価・・・A

- 地域や他館との連携も充実していることは、交流活動として素晴らしい。今後も新たな事業を展開していただきたい。
- 限られた人的リソースの範囲で学校連携での事業を十分行われている事は評価できる。今後は連携のあり方などに工夫を行い、事業内容が形骸化しないよう努力されたい。
- (学校連携については)学校は本当に助かっています。誇りです。神戸の中学校としてありがたく、誇れる取り組みです。(地域連携については)“神戸らしい”取り組み、旧居留地、南京町、外大と好ましい。(各種講座の開催については)夏期休業中の生徒向けのものなどありがたいです。(必要な改善については)解説文が以前より大きくなった。見える位置を意識したい。
- (学校連携については)高い評価を得ており、今後も続けられん事を望みます。
- 学校との連携は十分行われていると思います。近隣の研究機関・事業者とも連携をはかろうという姿勢は見られるが、ユーザー(来館者、一般の人)から見ると、連携のメリットがあまり感じられない。
- 学校や地域との連携は文化財に関わる機関の共通の課題。今後とも他の機関との連携を進めていくことが重要であろう。
- 事業に関して人的に限界とのことだが、知識があり、興味をもつシニアボランティアの育成、開発、連携の余地はないか。
- 各々の分野において、取り組みと成果が評価できる。年度を追って充実、向上している。
- 今以上の学校への出前授業等は日程的に難しいので、ある施設やある学校に数校集めて実施すればより多くの小中学校との連携を進めることができるものと思われる。”

## 活動目標 4

### すべての人々にやさしい博物館にします

#### 自己点検評価・・・B

リニューアル基本計画が策定できた。ユニバーサルデザインへの対応など課題は残ったが、空調設備の改修工事費が補正予算で認められた。

#### 外部評価・・・B

- リニューアル基本計画に基づいて、さらに全ての人々に優しい博物館にしてほしい。
- 神戸市立博物館の歴史的特性をふまえ、リニューアルに向け、財政当局と協議し、思い切った投資を期待する。
- ユニバーサルデザインの必要性。周辺施設との連携(コーヒーの割引他)で混雑時の解消が図れないか?(待ち番号札と共に)。(予算の充実については)定期的には難しくとも何年かに一度は“よいもの”を購入できれば…
- 「やさしい」の意味が不明です。また「やさしい」博物館であることの意義がわかりません。
- 自然災害の多発する現在、施設の老朽化対策を急いでほしい。
- 待ち時間の長い来館者の方々に対して説明など、配慮がありましたか？
- 施設面での課題は、今後の検討が期待される。
- 予算が厳しいなか、良くやってられると思います。"